

○南知多町左義長まつり

1月25日、南知多町の師崎漁港で、「左義長まつり」が開催されました。左義長とは、小正月（旧暦1月15日前後）に行う火祭り（どんど焼き）の行事のことで、古くから日本全国で行われています。師崎漁港での「左義長まつり」は、例年、1月の第四日曜日に、大漁祈願をかけた大のぼりを焼き尽くすという伝統行事が行われます。



火の粉をまき散らす大のぼり

まず、ふんどしを締めた地元の若者が船に見立てた御輿を担いで、祈祷された火の周りを走り回り、そのまま極寒の海の中に。その後、大漁祈願をかけた大のぼりに祈祷された火が付けられ、何度も、のぼりを起き上がらせては、左右に倒し、火の粉をまき散らせました。その姿はまさに圧巻で、ほとぼしる炎と若者の熱気からか、見ているこちらも熱を帯びているのを感じるほどでした。最後には、まつりに参加した若者が餅投げを行い、その御利益を得ようと多くの人々が群がり、盛大なフィナーレを迎えました。

○東三河広域防災研究会

1月29日、東三河広域防災研究会が豊橋技術科学大学サテライトオフィス（豊橋市松葉町）で開催されました。今回の研究会では、まず昨年8月28、29日に東三河地域で発生したゲリラ的な豪雨をテーマとして、まず大同工業大学の鷺見哲也准教授よりこの豪雨の現象や各種の問題点、次に市川晴久豊橋市河川課長より豊橋市の被害状況、また、豊橋技術科学大学の加藤茂准教授より高潮発生時に三河港で想定される状況をそれぞれご紹介いただきました。

鷺見准教授からは、岡崎市で起こった豪雨での問題点として「地域内におけるコミュニケーション不足」が挙げられ、被災地域が集中豪雨に弱い場所であることを地域の方々が認識していなかった点、また土地利用の形態が農用地から工業用地に移り変わっていたため、農地であった頃に整備されていた排水路が大量の雨水を流す規模ではなかった点を挙げられました。本研究会の内容を参考に、我々も地元自治体や港湾利用者とのコミュニケーションを密にして、緊急時においても迅速に対応できるような体制づくりや、港湾施設の設計の段階から維持管理しやすいような施設整備を進めて参ります。



鷺見哲也准教授

☆お知らせ☆

「みなとをを活かしたまちづくりセミナー&成果発表会」（仮称）開催！
3月6日（金）13時30分～ 南知多総合体育館



平成18年度より南知多地域（河和・豊浜・日間賀島の3地区）において進められてきました地域住民が主体となったみなとを核とした「まちづくり」について、この度、その成果を発表する会を開催することになりました。これまで、3地区ではそれぞれ忙しい合間を縫って会合を重ね、地域の課題解決に向けた検討が進められてきました。今回、これまでの検討経緯、これからの地域の将来像に向かっての具体的な取り組み内容（イベントの開催概要など）を、地区毎にそれぞれ工夫を凝らした演出等を用いた発表方法でご紹介したいと考えています。

また、成果発表に先立ち、全国各地で地域づくりの支援を精力的に進めておられる（株）地域活性プランニング代表取締役で地域活性化プロデューサーの藤崎慎一さんから「地域づくりは人づくり」と題した講演を予定しています。更に、元吉本興業（株）プロデューサーで、故横山やすし氏のマネージャー務め、現在は、全国各地を飛びまわり地域や人材を元気にする活動を進めておられる（有）志縁塾代表取締役の大谷由里子さんに「大谷流『ココロの元気』のつくり方」と題した講演をお願いしています。

知多地域にお住まいの皆さんや地域づくりをこれから進めようとお考えの地方公共団体等の関係の皆さんとっても大変参考になるのではないかと思います。席を多数ご用意しておりますので、是非ご来場下さい。

■と き 平成21年3月6日（金）13：30～17：30（13：00開場）
■場 所 南知多町総合体育館サブアリーナ（南知多町大字豊浜字須佐ヶ丘5 Tel. 0569-65-2880）
■参加費 無料
■参加定員 150名
■主催 美浜町、南知多町
■協力 国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所
■問合せ先 みなとを活かしたまちづくりセミナー事務局
窓口：美浜町役場 総務部企画課内 Tel:0569-82-1111
南知多町役場 総務部企画情報課内 Tel:0569-65-0711



★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧いただけます。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.24)



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

○半田市立雁宿小学校が衣浦港を見学

○蒲郡ふ頭にて大型客船「ふじ丸」が寄港 ○片道ちょこっとウォーキング

○平成20年度第1回BCM研究会 ○明海地区企業防災対策検討会

○南知多町左義長まつり ○東三河広域防災研究会

■お知らせ・・・「みなとを活かしたまちづくりセミナー&成果発表会」（仮称）開催！3月6日（金）

☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

2月11日に、愛知県生物多様性キャラバンセミナーの一環として行われた「三河湾環境チャレンジ～海に触れ、海を知り、海と暮らす蒲郡～」に参加してきました。

まず、愛知県国際会議準備室の酒井課長補佐より生物多様性の重要性の話があり、その中で、「現在、1年間に約4万種の生物が絶滅している。」という衝撃的な説明がありました。

続いて、蒲郡市で行われている「三河湾環境チャレンジ」に関する説明がありました。この事業は、平成14年のアオサ大発生を契機として始まったもので、地元の小学校に対する海の環境学習も実施されています。当日は、この環境学習を体験した竹島小学校5年生により、「海からのメッセージ」と題した発表が行われました。全員が舞台上がり、海を大切にしようといったメッセージを1人1人が伝え、最後には合唱と思わず涙腺がうるむ内容でした。

その後行われたパネルディスカッションでは、環境チャレンジの中心メンバーの方々による海への熱い思いが語られました。その中で、愛知県水産試験場の鈴木場長より、「あと50年もすると漁業は崩壊のおそれがある。」という海外事例の報告があり、またまた衝撃を受けました。

地元密着型で、衝撃と感動の混じった大変有意義な会合でした。また、当事務所でも、海や港について、現地に来て学ぶ機会を積極的に提供して参りたいと考えていますので、大変勉強になりました。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



お問い合わせ 0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

○半田市立雁宿小学校が衣浦港を見学

1月13日、半田市立雁宿小学校の3年生80名に、衣浦港の施設、海の環境、衣浦港の歴史についての学習の支援を行いました。船への乗船人数が限られているため、下記のように3つの班に分かれて順番に行いました。それぞれの内容についてご紹介します。

①衣浦港の施設を学ぶ



衣浦港の施設、役割を理解してもらうため、北は衣浦大橋から、南は碧南、武豊の発電所まで、船による衣浦港内見学を行いました。今までに何度か船に乗った事がある子もいましたが、初体験の生徒も大勢いて、船内は大騒ぎでした。

「海底トンネルの上を通ってる!」「荷物を運ぶ船は大きい!」など、海から見る衣浦港の施設や風景、係留している大きな船などに興奮した様子で、様々な感想を聞くことが出来ました。約20分間という短い時間でしたが、海から見える町の姿や港の様子など、何かを感じとってくれたようです。

②海の環境を学ぶ

海の環境を理解してもらうため、私達が行っている伊勢湾再生の取り組みについて説明をしました。その中で、海の環境を良くするためには、海の環境を学習すること、海へ流れ出るゴミを減らすことなど、一人一人何ができるのかをお話させていただきました。

その後、水質実験として、「衣浦港の海水」と「洗剤を入れた水」の2つのバケツを用意し、五感による観察や実験器具を使い、どのバケツが海水なのかを当てる実験をしました。児童達は、水を手に取ったり、においを嗅いだりして、「塩のにおいがする」など興味深げにバケツをのぞきこんだり、実験器具を使って一生懸命調べていました。その実験結果からどのバケツが衣浦港の海水なのか判定し、発表してもらいました。

最後に児童へ海に関心があるかどうか質問したところ、あまり海で遊んだことがないようでした。このような機会がきっかけとなり、海への関心が高まっていただけたらと思います。



③衣浦港の歴史を学ぶ

衣浦港の歴史を理解してもらうため、この地域では、江戸時代から酒、酢、味噌、しょうゆ造りなどの醸造業が盛んに行われ、それらが多くの廻船業者（船による運搬業者）により江戸や大阪へ運ばれ、また廻船により人の往来も盛んに行われて、衣浦港周辺の地域と共に発展してきた経緯をお話させていただきました。

その衣浦港と密接な関係にある半田市ですが、港内見学前にお話させていただいた最初の班には、半田市と海（みなと）との関係がはっきりしていない児童が多いような印象を受けましたが、港内見学を終えた班に衣浦港の歴史を話したところ、海からの物資と臨海部の施設の関係を見学した直後ということで、現地の状況を思い浮かべながら話を聞くことで、昔の海運の状況を理解してもらえたように感じました。

今回の見学会を通じて、実際に現地を見学することにより、身近な地域の学習がより深まるのではと思いました。当事務所としても、自分達が住んでいる海への関心を高めていただけるよう、今後も引き続き、現地を見てもらいながら学ぶことのできる場を提供して参りたいと思います。



○蒲郡ふ頭に大型客船「ふじ丸」が寄港

1月5日、大型客船「ふじ丸」が蒲郡ふ頭に寄港しました。「ふじ丸」は、全長167m（40階建ての高層ビルに相当する長さ）、船客定員600人、船内にはシアター、ショップ、スポーツデッキなどを備え、総トン数23,235トンもある豪華な外航客船で、1989年に就航した当時は、日本最大の客船でもありました。

午前8時頃、横浜港から到着した「ふじ丸」を、市民団体・和太鼓「響」の皆さんによる和太鼓演奏のお出迎えにより歓迎セレモニーが始まり、足立守弘蒲郡市副市長の挨拶、3名のミスみなとより乗客代表の方々への花束や記念品の贈呈、記念盾の交換が行われました。「ふじ丸」はこの日の夕方、東三河各所の観光を楽しまれた方々を乗せ、横浜港へ向けて出港しました。



大型客船「ふじ丸」

○片道電車のちょこっとウォーキング

1月18日、名鉄蒲郡線のこどもの国から東幡豆駅間を電車に乗り、東幡豆港まで行って海岸沿いを歩くイベントに参加しました。名鉄蒲郡線は単線で、こどもの国駅から東幡豆駅は3分足らずの乗車ですが、のんびりと進む電車の車窓から三河湾が一望できます。東幡豆駅で降りると100m足らずで海



右前方は西浦温泉街

に到着、そこからは間近に前島、沖島が、更に沖には佐久島や渥美半島も見え、昭和33年に指定された三河湾国定公園の眺めを楽しむことができました。ここから海沿いを3km程度ウォーキング。道中、妙善寺（通称：ハズ観音かばちや寺）でダイコン市が開催されており、ダイコン汁が振る舞われていたり、地域で取れた魚介や野菜なども販売されていました。温かいダイコン汁と雄大な三河湾に体も気持ちも暖まるイベントでした。

○平成20年度第1回BCM研究会

1月14日、三河港の臨海部におけるBCM（事業継続マネジメント）研究会を実施しました。阪神淡路大震災において、神戸港が多大な被災を受けて以来、みなとにおける防災対策が重要視されており、自動車など国内の産業活動の中心となっている中部地方においても、災害時における産業活動の速やかな復旧を目指すことは大変重要な課題です。当事務所としても、三河港の産業防災対策を検討するため、昨年度、産学官のメンバーによりこの研究会を立ち上げました。

今年度は港湾関係者に加え、消防の関係者にも参加いただき議論を進めています。また、三河港で最も企業が集積している明海地区をモデルケースとして、より具体的な検討を進めるため、企業防災対策検討会を実施することになりました。（下記の記事参考）



研究会の様子

○明海地区企業防災対策検討会



河邑真教授のご講演の様子

1月28日、明海地区企業防災対策検討会を開催しました。モデルとした三河港明海地区には多様な業種の企業が立地しており、防災に対する意識や取り組みも様々です。企業の被害に対する認識を共有するため、まず始めに、地震時の地盤挙動を研究されている豊橋技術科学大学の河邑真教授に、この地区で被災時にどのような現象が起こるかを、研究結果や実際被災した地域の写真などを使って分かりやすくご紹介いただきました。その後、今後の取り組みや行政への期待などについてアンケート調査を実施しました。この結果を次回のBCM研究会で取り上げ、今後、関係機関がどのように連携し防災に強い体制づくりを構築していくのか、更なる対応策を検討していきたいと思います。